

看護研究バックナンバー(内容紹介)

MAY
JUN

Vol.
45
No.
03

特集 | 質的研究を学び合う JRC-NQR の実践

- 質的研究の学び舎 JRC-NQR 谷津裕子
- 看護学の知の母胎としての「語らいの場」 中木高夫
- 『看護研究』誌にみる日本の質的研究の変遷 過去約40年間におけるレビュー 住谷ゆかり
- 質的研究におけるインタビューの捉えと実践 深谷基裕
- エスノグラフィー 理論的パースペクティブの変遷と看護研究における可能性 阿部利恵
- 言説分析について 永田明
- 研究論文の投稿から掲載まで 特に査読後の心境の変化に焦点を当てて 千葉邦子
- システムティックレビューにおけるエビデンス統合とその解釈的アプローチ 北素子
- 社会構成主義の実践としての対話 Gergenの『あなたへの社会構成主義』から 濱田真由美
- 質的研究の統合 メタ・シンセシスに焦点を当てて 谷津裕子、濱田真由美
- 言語学と質的研究 JRC-NQR と私 江藤裕之

●連載

看護研究の基礎—意義ある研究のためのヒント・9 量的研究—分析の基礎(前編) 坂下玲子
Words, words, words. 一学際的なダイアログをめざして③
サイエンスとアート(その1) 江藤裕之

MAR
APR

Vol.
45
No.
02

特集 | 研究の普及を支える基盤としての論文執筆

- 研究の普及を支える基盤 前田樹海
- 看護系論文の執筆スタイルの現状と展望
看護研究の普及を支えるために研究者と研究指導者、看護系学会ができること 谷津裕子、中木高夫
- 論文執筆マニュアルを研究にいかすために 主要な3つのマニュアルの比較からみえてくるもの 江藤裕之
- 看護教育と看護実践において、臨臨床的な知識を発展させるには
パトリシア・ベナー博士来日講演会(京都)より Patricia Benner / 通訳: 早野 ZITO 真佐子

●特別記事

Margaret Newman によるニューマン・ブラクシス方法論
実践的研究例: がん体験者と家族による「生活習慣立て直し対話の会」支援モデル開発
遠藤恵美子、高木真理

●提言

Mixed Methods を用いた看護研究の提案 古川亮子

●連載

Words, words, words. 一学際的なダイアログをめざして②
遍と個 universal vs. individual 江藤裕之
看護研究の基礎—意義ある研究のためのヒント・8 インタビューデータの収集 坂下玲子

JAN
FEB

Vol.
45
No.
01

特集 | 研究者育成のための質保証におけるグローバルスタンダード

- 研究者育成の質保証の現状と課題 牧本清子
- 研究者育成の質保証に向けた日米の大学院教育の相違 大阪大学大学院保健学専攻における取り組み 牧本清子
- 米国における研究者育成の質保証の現状と課題 ワシントン大学を中心に考える 近藤暁子
- 英国の大学におけるリサーチチューデント育成のためのサポートシステム マンチェスター大学を例に 小松容子
- フィンランドにおける看護研究者育成の現状と課題 佐々木明子
- タイにおける看護研究者育成の質保証の現状と課題 山本あい子、岩國亜紀子
- JCEBPの活動からわが国の研究と研究者育成の質保証を考える
伊藤美樹子、山川みやえ、心光世津子、竹内佐智恵

●新連載

Words, words, words. 一学際的なダイアログをめざして① 学際的 interdisciplinary 江藤裕之

●特別記事

国際看護研究の魅力—タンザニアにおけるフィールドワークと米国大学院での経験③
これから国際看護研究を行なう研究者のために 教員・アドバイザーによる「覚書」
Crystal Patil, Kathleen Norr / 翻訳・執筆: 新福洋子

●原著論文

前腕の皮膚水分喪失量(TEWL)簡易計測パッチによる全身発汗量の推定
四十竹美千代、堀悦朗、八塚美樹、小野寺孝一、浜出絵理子、横井秀輔、小野武年、西条寿夫

●連載

看護研究の基礎—意義ある研究のためのヒント・7 アンケート(質問票)の設計 坂下玲子

